

## 学位記伝達式 学類長祝辞 (2016.3.22)

今、学位記をお渡しした 59 名の皆さん、あらためて、卒業おめでとうございます。またこの間、留学や海外語学研修などで海外に出かけることも多かった本学類の卒業生たちを、心配しながらも温かく見守って下さった保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

皆さんが入学したばかりの新入生オリエンテーションや新歓合宿での初々しい姿を思い出すと、今こうして、たくましく成長し、晴れやかな表情で巣立とうとしている皆さんを目の前にして、感慨深いものがあります。

金沢は昨年 3 月 14 日の北陸新幹線開業以来、多くの観光客が押し寄せて大変な賑わいを見せています。駅のもてなしドームの天井から下がる大きな垂れ幕の観光キャッチコピーは、開業前の「新幹線が春を連れてやってくる」から、いつの間にか「金沢に来るなら、春か夏か秋か冬がいいと思います」に変わりました。「金沢に来るなら、春か夏か秋か冬がいい」とは、何とも図々しいキャッチコピーのようにも思いますが、金沢暮らしが 25 年を超えた私から見ても、確かに金沢という街は、四季それぞれに様々な魅力を秘めた素敵な街だと思います。そんな金沢で過ごした学生生活の思い出を、第 7 ギョーザや金沢カレー、ハントライスなどの記憶とともに、大切にして下さい。

さて、わが国際学類はその人材養成の目標、つまり「ディプロマ・ポリシー」を次のような言葉で表現しています。

「グローバル化が進んだ 21 世紀に、国際社会への洞察力を持ち、異文化との〈しなやかな共生〉を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国・異文化への探究心、コミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務で活躍できる人材を育てる」

国際学類を卒業するにあたって、学類発足以来、大切にしてきた「異文化との〈しなやかな共生〉」という言葉は今一度心に刻んでほしいと思います。

21 世紀初頭の現在、世界には我々人類がともに手を取り合って解決しなければいけない問題が山積しています。悲しいことですが、世界のあちこちで争いやテロが続いています。国内に限っても、東日本大震災や原発事故の爪痕は未だに多く残っていますし、政治的にも、安全保障関連法の施行や少子高齢化問題、また最近、ネット上での「日本死ね！」の書き込みで話題になっている東京など都市部での保育園不足など、皆さんのような若い世代がこれから直面せざるを得ない課題がたくさんあります。今こそ、世界的な視野でそれらの諸課題を解決していけるグローバル人材が必要とされていると思います。

日本人として初めて国連職員に採用され、国連事務次長まで務めた明石康氏は、グローバル人材に求められるものとして、「やる気と異文化理解力、そしてコミュニケーション能力、さらに付け足すなら知的な好奇心」とおっしゃってい

ます。

その点、皆さんは、本学での学生生活の中で、キャンパス内でも多くの留学生との出会いを初めとする貴重な経験をし、また海外での語学研修や留学を通じて、こうしたグローバル人材に求められる力をかなり身に付けてくれたと信じています。

<異文化>とは海外の異文化だけではありません。日本国内においても様々な異文化が存在します。金沢という街、金沢大学、そして国際学類での学びや経験を通じて得たものにどうぞ自信を持って、これから社会で出会うであろう様々な異文化としなやかに共生して行ってください。そうすれば、多少の困難は乗り越えられるはずです。

さて、「玉磨かざれば光無し」「玉磨かざれば器（き）をなさず」という言葉を皆さんは知っているでしょうか。どれほどすばらしい宝石でも、原石のまま磨かなければ光りもせず、りっぱな器（うつわ）にもならないという意味です。若い皆さんは、宝石の原石としての自分に自信を持つと同時に、決して奢ることなく、常に謙虚に、玉である自分を磨き続ける努力を怠らないでほしいと思います。

金沢大学は昨年度から 10 年間、文部科学省の SGU（スーパーグローバル大学創成事業）に採択され、国際学類は今後ますます、その先導学類としての役割を期待されるに違いありません。我々は、この SGU 採択を追い風に、これからも学類生の皆さんとともに、学類のさらに新しい歴史を作っていかなければいけないと考えています。

そんな国際学類を選んで金沢大学に入学したことは間違っていなかった、国際学類で学んでよかった。ここにいる皆さんの一人でも多くの方がそんなふうに思って卒業して行って下さるならば、我々教員にとって、これに優る喜びはありません。

最後に、皆さんにお願いがあります。

国際学類は 2008 年 4 月に創設以来、今日でようやく 5 回目の卒業生を送り出した、まだまだ歴史の浅い学類です。皆さんには、卒業してからも、学類の先輩や後輩、そして私たち教員との絆を長くつないでいただき、国際学類を応援し続けてほしいと思います。3 年前から毎年 11 月に開催している国際学類同窓会にも、都合がつけばぜひ参加して元気な顔を見せて下さい。

皆さんのこれからの健康とご活躍をお祈りして、簡単ですがお祝いの言葉とします。本日はおめでとうございました。